

平成20年度 市長と語るう会 「分野別報告書」

テーマ 交流 「定住しやすい環境とは」

開催日時 平成20年8月4日(月)午後7時～9時00分

開催場所 「あえりあ遠野2階やまぼうし」

作成者 産業振興部ふるさと定住推進室 主事 紺野友勝

市民出席者 (敬称略)

	氏名	性別	住所(町名)	職業等
1	保坂忠晴	男	土淵町	農業
2	奈良邦長	男	小友町	農業
3	田村雄太郎	男	遠野町	無職
4	小竹森正一	男	宮守町	無職
5	小関詞穂	女	新町	会社員
6	相馬まゆみ	女	綾織町	訪問看護師
7	Bruce Wood	男	綾織町	自営
8	相馬海	男	綾織町	綾織中学校1年
9	下弘明	男	松崎町	農業・定住アドバイザー

	意見・提言の内容	市長のコメント	担当課の意見・回答等
1	<p>仕事の問題、住居の問題、家族の問題といろいろあるが、行政としては横の連携をどうするかが問題。「で・くらす遠野」と市役所が一生懸命になれるか、雰囲気づくりが必要である。</p> <p>「で・くらす遠野」は直接的なインターフェースとして必要。しかし、まちづくり全体をどう考えるのかも重要。</p>	<p>生活の質、環境を整えることは重要。</p> <p>移住したい環境とは、自然だけでなく、生活の質、仕事が必要だが、整備するにも先立つものがない状況。</p>	<p>定住希望者が移住を考える際は、そのまちづくりが希望者に受け入れられなければならないと考える。</p> <p>「で・くらす遠野」は、横断的な組織として設置したが、まだ十分機能しているとはいえない。今後は、関係各課と連携し、全庁的に取り組む。</p>
2	<p>団塊の世代には、遠野のような「田舎」は魅力的だが、定住希望者の候補地は仙台以南がほとんど。遠野に居住させるには定住者の口コミが大事。</p>	<p>行政がきめ細かな対応をすることが必要で、生活・仕事の問題は、で・くらす遠野において、官民一体となって取り組んでいるが、もっとケースバイケースでの対応が必要。</p>	<p>生活していく上で必要なものが世代毎に異なっていると考え。</p> <p>可能な限り、移住・定住希望者の状況に応じた対応を心がける。</p> <p>また、行政が行っているサービスについてわか</p>
3	<p>定住者対策だけでなく、若者の定住対策も必要。</p>		

4	移住希望者は、インターネット上で様々な情報交換をしている。世代別に対応を考えるべき。時給 800円ぐらいのパートでは、二人で暮らす分には良いが、将来の生活を考えたときに、不安。	仕事や子育て対策、インフラ整備などは横の連携がなくては解決しない。	りやすい広報活動を行う(2~5共通)
5	住んでいる人がずっと住みたい環境でないといけない。		
6	「老後」というのがひとつのターゲット。「介護」という産業を育成してはどうか。移住してきた人より地元の生活の現実が深刻。企業誘致ばかりではなく、遠野ならではの産業に絞ることはどうか。	東京・町田市長と話をしたときに、「東京ではどんどん介護施設を作っても間に合わない。地方でその辺の役割をまかなくてはどうか」という話を聞いた。 若い人を出さないようにすることが大事という意見だが、そうすると「定住推進室」という話ではなく、トータルに考えなければならない。	「介護」という視点で産業振興を図るアイデアは、大変参考になる。 遠野市の産業振興策の一つとして、「お年寄りに安心安全なまち」という切り口からも何か出来ないか検討する。
7	農家で寝たきりの方が多い。古い建物などを活用した施設があれば、預けやすくなる。農業が忙しいときに預かってくれる場所があれば農家も助かる。観光しながら、母親を預かってくれるようなことも出来る。そうすればもっと人(観光客・働く人)が来る。		
8	農業の将来をどう考えるのか。バックアップしてくれるベテラン農家を紹介してくれるシステムがあってもいい。		「で・くらす遠野」では、就農支援は農業活性化本部(アスト)や農業委員会などと連携しながら取り組んでいる。今後、就農タイプに応じた支援体制の構築など皆様のご希望に添えるように取り組んでいく。
9	「永遠の日本のふるさと」をあまり開発して欲しくない。いいものを残しながら生活しやすい環境を作りたい。ターゲットを絞った取り組みを進めて欲しい。		便利になることもある程度必要であるが、行き過ぎた開発は良い事ではない。不便な点は解消しながらも良い所は残す。当市らしいといわれるようなバランスの取れた開発を行うよう取り組む。
10	移住を考える場合、妻の生活スタイルを投げ捨てて移住するのは難しい。 ただし、移住先に女性の活動の場がたくさんあれば、説得しやすい。		当市においては、女性が積極的に活動し、まちづくりに参画している地域もある。市民センターや各地区センター主催のイベント等により、新しいスタイルのサークル活動についても支援していく。
11	遠野を同じパターンで発信し続けることが大切。遠野には、都会生活をやめたいと思う人の受け皿となり得るものがたくさんある。都会で生活している人に対してお金だけで価値を換算していないことも発信して欲しい。		「永遠の日本のふるさと」として「お金」で換算できない価値が遠野にはたくさんあるということ、積極的に情報発信し、さらに遠野ファンの獲得を進める。